

# 赤米ニュース

## 第309号

(2022年12月31日)



## 東京赤米研究会

〒186-0003 東京都国立市富士見台 4-11-13 メゾン国立 201 長沢方 (Tel.042-577-6855)

---

おしらせ	2
おたより	4
小学生のための赤米講座 (II)	6
表紙解説：国分寺市の年中行事⑫—北町のしめ縄飾り—	8

# おしらせ

## ●今年も史跡畑で赤米稲刈り！

国分寺市立第五小学校および国分寺赤米会（龍神瑞穂会長）の年間最大イベントである、武蔵国分寺跡の史跡畑での赤米稲刈りが本年10月3日（日）、例年通り盛大におこなわれました（写真参照）。

この日の朝、赤米会のメンバー約20名が史跡畑に集合し、脱穀に用いられる千歯抜きや籾摺り用のすり鉢などを運び込んで、まずは準備にあたります。やがて9時半頃、五小を発った5年生の児童約100名が、ぞろぞろと行列してやってきて、畑に勢揃いしました。

さっそく青空朝礼となり、校長先生と龍神会長の挨拶があつて、今日の稲刈り仕事の段取りが説明されましたが、あまり時間がないので、ただちに作業に取りかかります。1～3組に分かれ、①稲刈り・②脱穀・③籾摺りの三つの作業場に分散・移動して、順繰りに仕事に取りかかります。

まずは①稲刈りですが、児童らは手に手に石包丁を持って、赤米稲の稲穂を穂刈りにしていきます。4ヶ月前に子どもたち自らの手で種まきをした赤米稲は、1.5mもの背丈にまで伸び、重い稲穂を稔らせていて、まさに大豊作です。刈り取った稲穂は、どンドンシートの上に積み上げられていきます。次に、②脱穀ですが、あらかじめ根刈り・天日干しを



武蔵国分寺跡地での赤米稲刈りが、今年も盛大におこなわれました（10月3日）

### さっそく稲刈りに挑戦です



### 上手に稲が刈れるかな？



しておいた稲穂を、千歯抜きに通して粃を落していきます。まずは赤米会のメンバーが模範演技をして見せると、千歯抜きの刃の隙間から見事に粃がこぼれ落ち、子どもたちからは歓声があがります。次に児童らも脱穀に挑戦してみますが、すぐにコツをつかんで上手に粃を落とせるようになりました。次に③粃摺りですが、一人一個ずつ配られた摺鉢とスリコギを用い、粃をゴリゴリと摺っていきますと、真っ赤な玄米がどんどん現れ、「本当に赤いお米だ！」と、子どもたちは大感激です。赤米会のメンバーは、3ヶ所の作業場ごとに分散して配置され、熱心に児童らを指導しておられました。

こうして3クラスが三つの作業場を移動

しつつ、一通りの仕事を終えて、午前10時頃には作業終了となりました。青空の下、反省会もおこなわれ、児童代表が今日の感想と、赤米会の人々への感謝の言葉を述べ、解散となりました。子どもたちは、再び行列を組んで史跡畑をあとにしますが、口々に「ありがとうございました！」の声を残して、ぞろぞろと五小へと帰っていきました。天気にも恵まれ、熱中症で具合の悪くなる子どもが出ることもなく、素晴らしい一日を今年も無事に終えることができました。

### ●赤米セミナーレのしめ縄作り

東京都国分寺市の赤米セミナーレ（大石岳人代表）では、今年も市内の恋ヶ窪公民館の屋上広場で例年通り、赤米のバケツ栽培をおこなってきましたが、10月には無事に収穫を終えることができました。12月5日（月）には同公民館の会議室を借りて、恒例の正月用しめ縄リース作りがおこなわれました。大量に運び込まれた赤米の稲藁は、赤米セミナーレが恋ヶ窪公民館で刈り取ったもの、国分寺赤米プロジェクトが都内青梅市で収穫したもの、国分寺赤米会が史跡畑で育てたものの3種類で、それらを用いて太いしめ縄をよじり、

### しめ縄作りに奮闘中の皆さんです



丸く縛ってリースを作り、松葉・松ぼっくり・水引・松竹梅飾りなどを取り付けます。

慣れない作業に皆さん、悪戦苦闘しておられましたが（写真参照）、30分ほどかけて見事な作品をめいめい作りあげることができました。中でも素晴らしい手業を披露して下さったのは、富村隆子さんと大石岳人さんで、あつという間にプロ級の作品を、次々と何個も作ってしまうのには驚かされました。最後に皆さんが持ち寄られた赤米のお握りを全員でいただき、解散となりました。

### ●会員登録の更新のお知らせ

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今年の赤米作りも何とか終了しましたが、これを機会に今年もまた例年通り、恒例の会員再登録・更新の手続きを、おこないたいと思いますので、よろしくご協力のほどをお願い申し上げます。本誌『赤米ニュース』は、購読料会費というものが無いかわりに、例年1年間単位で会員の皆様に、本誌の継続配布希望の有無を、意思表示していただくことになっております。その手続きのやり方は、次の通りです。

すなわち明年1月以降も、『赤米ニュース』の配布を引き続き希望される方は、本年中にその旨を一言、本会までご連絡下さい。連絡方法は、葉書でも手紙でも電話1本でもかまいません。どうせですからその際に、本年の赤米稲の作柄状況やご感想、失敗談などのエピソードも、ついでにお知らせ願えればとも存じます。明年1月号からは、配布継続の意思表示をされた方々だけにのみ、本誌を継続発送させていただくこととなりますので、この手続きを怠りますと、発送が打ち切られることとなります。ぜひご注意願いたいと思います。

お手数をおかけしますが、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

## おたより

### ●種子島種が出穂（高橋寿子）

大型台風が過ぎ、ほっといたしました。我家の稲は重陽の節句の日に小さな、しかし立派な穂を出し、花を咲かせました。その翌日



のスケッチがこれです。その後、次々に穂が出、毎日見あきません。ところが、白いはずの芒が赤いのです。どうしたことでしょうか(9/21：東京都国分寺市)。

●些少ですが切手代を(安本義正)

ようやく秋らしくなってきました。ご無沙汰しております。いつも『赤米ニュース』を楽しく拝読しております。いつもいつも、赤米文化の継承にご尽力されておられることに敬服いたしております。今後ともご活躍を祈念致します。いつも『赤米ニュース』を無料でお送りいただくことに、申し訳なく思っておりますので、今回些少ですが、切手代を同封させていただきます。ご笑納ください(10/1：京都府京都市)。

●種子島種が出穂(高橋寿子)

種子島種の芒の色の違いは不思議です。今年も御指導頂き、有難うございました。我家の赤米は130cm以上の丈に育ち、瓶に33本、バケツには28本の稲穂が実り、6.2cm位ののぎで身を飾り、たわわにしております。試しに一粒とって粳殻をむいてみましたら、まだ赤米になっていませんでした。『赤米ニュース』307号で10月3日頃、稲刈りとの事です、こちらはまだ先の事になりそうです。来年もどうぞよろしく御指導下さいますよう、お願い申し上げます(10/10：東京都国分寺市)。

●木曾路の赤米・黒米(坂真矢子)

木曾福島の道の駅でみつけた古代米をおくります。御笑納ください。季節の変わり目です。御自愛下さい(10/28：愛知県名古屋市)。

●二年連続の失敗(野沢森生)

先日は『赤米ニュース』第三〇八号、お送り頂き有難うございます。いつも栽培マニュアル、参考にさせて頂いておりましたが、どうも途中から稲穂が何故か分からないうちに、かなり落ちてしまい、殆ど収穫することが出来ませんでした。昨年のごっそり(たぶんズメに)持っていかれまして、今年は事前に防鳥ネットを用意しましたが、残念な結果となってしまいました。二年連続の失敗となり、かなり気落ちしておりましたが、気を取り直し、明春に再々チャレンジしていこうと思うようになりました。会員登録の更新のお知らせ有難うございます。『赤米ニュース』はやはり読ませて頂くと励みになりますので、継続させて頂きたく、どうぞよろしく願いいたします(11/8：東京都国分寺市)。

●赤米三種を希望(田中光里)

初めてお便り申し上げます。栃木県鹿沼市で今年から夫婦二人、自然栽培での稲と真蒴づくりを始めました田中と申します。この度、稲の歴史文化に興味を持ち、東京赤米研究会さんの『赤米ニュース』に出会うことができました。私どもも来年、赤米の栽培をしたいと思っているのですが、種粳の配布は一人どのくらいの量でしょうか?。第三〇〇号(二〇二二年三月三十一日)に記載されておりました、①総社種赤米・②種子島種赤米・③武蔵国分寺種赤米、この三種類をお願いしたいと思っております。何卒よろしく願い致します(11/26：栃木県鹿沼市)。

●ブータン種・国分寺種を収穫(松坂利恵)

お久しぶりです。お元気でいらっしゃいますでしょうか?。頂いた種子で、無事収穫できました!。ブータン種は、遅い!背が高い!

(と～ってもかわいい!)。もちっとして美味しい。武蔵国分寺種は、早い!脱粒する!(落ちなかったのを来年植えます)もちっとして美味しい。普通のお米も植えてるので、違いが楽しめました。来年もまた植えてみます!。色々とお聞きしたい事、いっぱいですが...、とり急ぎお礼まで。ありがとうございました(12/12:神奈川県大和市)。

## 小学生のための赤米講座(Ⅱ)

長沢 利明

東京都国分寺市の第五小学校で7月15日(金)、総合学習の時間を使い、赤米授業をおこないました。その時に、みなさんからたくさんのご質問が私によせられましたので、ここで簡単にお答えさせていただきます。

**[質問1] 赤米は今では四つの地域で育てられています、昔はもっと多くの地域で育てられていたのですか?**

(答) 大昔は日本中で赤米が育てられていました。奈良時代ころまでは赤米の方がふつうで、白いお米はあまり多くなかったと考えられています。江戸時代になると、赤米はどんどん少なくなっていきましたが、青森県や北陸地方ではまだ少しは育てられていました。明治時代になると、赤米はほとんどすがたを消してしまい、四つの地域にだけ生きのこったのです。

**[質問2] インディカ米とジャポニカ米以外にも種類はありますか?**

(答) インディカ米とジャポニカ米のほかに、もうひとつ「ジャヴァニカ米」というものがありました。米つぶの形はジャポニカ米とそ

っくりですが、ひとまわり米つぶが大きいのがとくちょうです。ジャヴァニカ米は、日本では奈良時代ころまで少しだけさいばいされていましたが、その後に絶滅しています。フィリピンやインドネシアでは、今でもさいばいされています。

**[質問3] 粳に毛があるのは、どのような理由があるのですか?**

(答) いろいろな説があって、動物に実を食べられないように守っているのだ、とかいわれてきました。最近の研究によりますと、粳が風で飛ばされやすいように、毛がはえているのだという説がふつうになっています。長い毛がパラシュートのように風を受けて、粳を遠くに飛ばし、あちこちで芽を出して、子孫をふやしているということです。じっさいに、赤米のタネは風に飛ばされて、ずいぶん遠くの方まで飛んでいきます。

**[質問4] 赤米には白米とちがって、どのような栄養があるのですか?**

(答) 玄米の赤米には、ビタミンやミネラルなどが豊富にふくまれている、白いお米よりもずっと多くの栄養分がみられます。特に、カリウム・マグネシウム・ビタミンE・ナイアシン・カテキン・食物せんいなどは、ふつうのお米の何倍もの量がふくまれていますから、赤米を食べるとからだにもとてもよいのです。すぐれた健康食品として、注目を集めています。

**[質問5] 赤米は昔から育てられてきたといいますが、それは何年前からなのですか?**

(答) くわしいことはわかっていませんが、少なくとも1300年前にたくさん育てられていたことは確実です。けれども、たぶんもっとも前から日本にあったのだらうと、考えられています。遺跡から発見される縄文時

代～弥生時代のお米は黒く変色してしまっているの、色がわからないのです。それらはたぶん、赤い色をしたお米であったはずだと、私たちは考えています。

**【質問6】 国分寺では、インディカ米は作っているのですか？**

(答) 作っていなかったようですが、たしかなことはわかっていません。東京都内では、杉並区などで江戸時代にインディカ米が栽培されていたという記録が残っています。多摩地域でいうと、武蔵村山市などで最近まで作られていましたが、今では絶滅しています。

**【質問7】 インディカ米は、なぜ日本で栽培されないのですか？**

(答) インディカ米は、日本でもさかんに栽培されていました。鎌倉時代～室町時代ころに中国から日本につたわり、やせた土地や寒い地域などで栽培されるようになって、江戸時代には日本中にひろがっていきました。江戸時代にはまずしい人々の主食として、インディカ米の赤米がたくさん食べられていましたし、大阪などではそれがあたりまえだったのです。ジャポニカ米にくらべ、あまりおいしくなかったため、だんだん栽培されないようになり、今ではほとんど消滅しています。

**【質問8】 野生の米は現在、食べられているのですか？**

(答) インドのアッサム州・ビハール州・オリッサ州などでは、今でも野生のお米を食べている人々がいます。湖の岸边にはえる野生イネの実を、舟の上から収穫して、ごはんにたいて食べるそうです。タイのバンコクには、野生イネのお米を、おかゆにして食べさせるお店があるそうで、名物料理になっているといます。なかなかおいしいそうです。

**【質問9】 お米の色は、何色あるのですか？**

(答) ふつうのお米は白い色、赤米は赤い色をしています、そのほかにもいろいろな色のお米があり、10種類ぐらあります。黒米というお米の場合、粳や玄米は黒い色をしています、ごはんにとくと、きれいな紫色になります。緑米というお米は、緑色をしています。ベンガラとって、オレンジ色のお米もあり、「オレンジ米」といってもよいかもれません。東南アジアの少数民族は、お祭りや結婚式など、おめでたいことがあると、いろいろな色のお米をたいて、カラフルなごはんを用意し、おいわいをするのだそうです。

**【質問10】 野生の稲は現在、少ないのですか？**

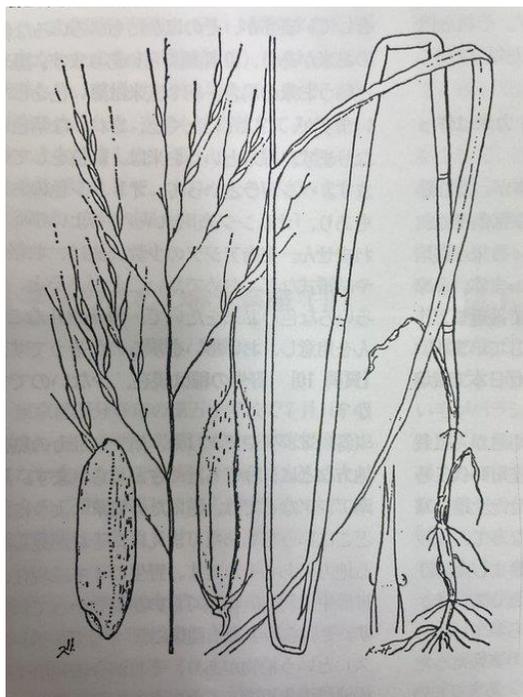
(答) アジアやアフリカ、南アメリカの熱帯地方などに、今でもたくさん見られます。東南アジアなどでは、道ばたの雑草のように、どこにいてもあたりまえに、それが見られる地方もあるそうです。野生のイネは現在、世界中で約30種類ぐら見つかっています。それらの中の1種類に、「オリザ・ペレニス」という植物があり、それが今の栽培イネの直接の先祖であるということが、わかっています。

**【質問11】 赤米が最初に見つかったのはいつですか？**

(答) 国分寺市を例にとると、1997年に最初に赤米イネが発見され、「武蔵国分寺種」と名づけられました。発見された場所は、東恋ヶ窪2丁目2番地の畑の中で、西武鉄道多摩湖線の線路のそばです。今ではそこに畑はなく、マンションがたっています。発見されてから25年たった現在、赤米イネは大切に保護され、今では国分寺市内のあちこちで栽培されるようになりました。

**【質問12】 なぜイネのひげには長さに違い**

### 野生イネ (オリザ・ペレニス)



があるのですか？

(答) 野生イネには10 cmもの長いヒゲ(ノギといいますが)があり、それがパラシュートになってタネが風で遠くに飛ばされるようになっています。野生イネが栽培植物となり、人間の手で改良がくわえられるようになりますと、もうタネを風で飛ばす必要がなくなり、しだいにヒゲが退化して、どんどん短くなっていきました。現在のイネには、もうほとんどヒゲがありません。野生イネに近い原始的なイネほど長いヒゲを持っていますし、改良

された新しいイネほどヒゲは短いのです。ヒゲの長さのちがいは、そのように考えられています。

**[質問 13] 赤米の種子になる稲は、どこで手に入るのですか？**

(答) みなさんが校内で田植えをしたとき、あるいは武蔵国分寺跡地の赤米畑で種まきをしたときに、いろいろ教えて下さった「国分寺赤米会」という会が、希望者に赤米のタネを無料で分けてくださっています。もし、ご自分でタネをまいて、赤米イネを育ててみたいという人がいたら、ぜひその会の人たちに頼んでみてください。こころよくタネを分けてくださると思います。この私に言うてくださってもかまいません。稲刈りのときなどに、遠慮しないで声をかけてみてください。

---

#### [表紙解説] 国分寺市の年中行事⑫—北町のしめ縄飾り—

新年のおとずれを間近に控えた師走の下旬頃、農家の屋敷入口には、正月を迎えるためのしめ縄が飾られる。特に北町の旧五日市街道沿いの家々では、独特のしめ縄を飾る習慣があって、「豊磬間戸命・櫛磬間戸命」の二神の名の刷られた札をしめ縄に垂らす。この二神は家々の屋敷入口の守護神である。